

加 佐

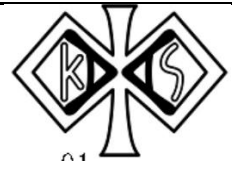
学校だより 1 学期末号

令和6年7月19日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



あ～ 夏休み



夏休み～の響きには、みなさんそれぞれが経験した思い出が重なり合います。こどもたちはこれから「その経験」を積む立場なので、今は「やった～！夏休み♪」なのかもしれません。「夏休みを有意義に過ごしましょう！」って教師も言っちゃうんですけど、「有意義」の具体的な内容を学校が示し過ぎると、本来の「夏休みの経験」にならないような気もするので難しいです。

学校教育において、夏休み（長期休業期間）は明治時代にはあったようで、当時の発想からすると「農繁期に（こどもであっても）人手が必要だったから・・・」とか「夏の暑さを避けるため・・・」とか所説いわれます。（もはや理由には沿わないまま、いろんな制度やイベントが、「夏休み在りき」で作られているので、今更どうにかしようとは思いませんけれど。）

学校教育法施行令は、「家庭及び地域における体験的な学習活動のための休業日・・・」と謳っているので、「休みじゃないよ！体験的な・・・のためだよ」とはいうものの、結局ご家庭や地域にお願いすることになるなら、それも申し訳ないような気になります。この際、「昔に戻って田畑の手伝いを思いっきりさせてみるのもいかがか？」と思いきや、熱中症警戒アラートはほとんど毎日「嚴重警戒レッドゾーン」ですし、深刻な交通事故や水難事故の報道に触れると、「どんな経験がさせられるか？」やっぱり迷います。ここまで書いて「これって大人の視線からの大人の価値観なのかな？」と立ち止まりました。さて当人の子どもたちは「時間が一杯あったら何を考えるだろう？何がしたいのだろう？」今、教育の分野では「主体的」「主体性」がトレンドワードです。「予測困難な未来を主体的に切り開いていく力」を身につけさせなければなりません。（☹️コレも言われる子どもにしたら重たいですけど）

さて彼らは「夏休み」という白紙のスケジュール帳を「有意義」に使えるでしょうか。大人は彼らの「主体性」を引き出せるでしょうか。「夢のある未来」は大げさですから、まずは「夢のある夏休み」にさせてあげたいです。1学期を無事に終えられました。たくさんご協力をいただきました。ありがとうございます。始業式には「夏休みの充実度」を聞かせてください。



オリンピックイヤー



体育科の校長ですから、触れない訳にはいかない「パリ五輪」です。上記の通り、夏休みの記憶の所々にオリンピックが登場します。最初は小学6年、カールルス4冠に沸いた84ロスです。テレビでオリンピックを楽しむようになった初めての経験でしたが、それもそのはず、オリンピックの商業化が始まった年でした。その前は80モスクワですから、小2の私にはちょっと難しい話だったんですね。88ソウルは高校1年生、ベン・ジョンソンの驚異的な世界新記録から一転、ドーピングの実態が世界を駆け巡るニュースになった衝撃的な大会でした。「アマチュアスポーツの祭典」が国威発揚のメダル数争いになったり、「平和の祭典」が政治や戦争に巻き込まれたり、環境負荷や財政負担やら。「夏の自由研究」にはピッタリのテーマです。さて、地球の裏側で行われるパリ大会は五輪史に何を残すのでしょうか。眠れない夏休みになりそうだ。

☆☆☆舞鶴出身 バレーボール 井上愛里沙選手 に大注目！☆☆☆

舞鶴市立加佐中学校 校長 阪口靖敬 教職員一同